

令和元年度

事業報告書

決算書

目 次

I - I. 令和元年度事業報告書	
1. 事業概況（令和元年度を振り返って）	3
2. 総 裁	3
3. 役員構成	3
4. 会員数	3
5. 会議等	4
6. 登記事項	4
7. 組織及び職員数	5
8. 恩賜発明賞・恩賜記念賞の贈呈	6
9. 発明奨励振興事業	6
(1) 全国発明表彰	6
(2) 地方発明表彰	7
(3) 戦後日本のイノベーション 100 選	7
10. 青少年創造性開発育成事業	7
(1) 第 78 回全日本学生児童発明くふう展	7
(2) 未来の科学の夢絵画展	8
(3) 未来の科学の夢絵画展 ネット美術館	8
(4) 少年少女発明クラブ事業	9
(5) 第 10 回全国少年少女チャレンジ創造コンテスト	10
(6) 第 63 回東京都児童生徒発明くふう展	10
(7) 青少年創造性開発育成海外交流	10
(8) 発明の日及び科学技術週間協賛事業	11
(9) 青少年創造性開発育成委員会	11
(10) 青少年創造性開発育成事業へのご協賛	11
11. 知的財産権制度普及等事業	11
国際知的財産保護フォーラム	11
12. 地域機関との相互連携	11
発明協会会長等懇談会（8 地方ブロック）	11
13. 関係省庁への協力	12
(1) 文部科学省表彰関係事業への協力	12
(2) 特許庁知財功労賞への協力	12
14. 東京発明推進協議会の活動	12
15. 公益事業の広報活動	12
I - II. 事業報告書の附属明細書	
事業報告書の附属明細書	13
II. 令和元年度決算書	
貸借対照表	15
正味財産増減計算書	16
正味財産増減計算書内訳表	17
財務諸表に対する注記	18
附属明細書	19
財産目録	20
収支計算書	22
収支計算書（資金ベース）	23

I. 令和元年度事業報告書

1. 事業概況（令和元年度を振り返って）

当協会は、我が国科学技術の振興と産業経済の発展に貢献するため、令和元年度においても引き続き、発明の奨励、青少年の創造性開発育成、知的財産権制度普及等の公益事業を着実に推進した。

発明奨励振興事業においては、全国発明表彰で恩賜発明賞ほか各賞を贈呈するとともに、全国 8 ブロックで地方発明表彰を実施した。青少年創造性開発育成事業においては、企業等からの協賛を得て、全日本学生児童発明くふう展、未来の科学の夢絵画展、全国少年少女チャレンジ創造コンテスト、少年少女発明クラブ事業等を実施した。

以下、令和元年度の事業について報告する。

2. 総 裁 常 陸 宮 殿 下

3. 役 員 構 成 （令和 2 年 3 月 31 日現在）

会 長	1 名	（代表理事）
副 会 長	5 名	（うち 1 名代表理事）
専務理事	1 名	（業務執行理事）
常務理事	2 名	（業務執行理事）
理 事	34 名	
監 査 役	2 名	
特別顧問	3 名	
顧 問	2 名	
参 与	1 名	
幹 事	137 名	

4. 会 員 数 （令和 2 年 3 月 31 日現在）

421 社・名

5. 会 議 等

(1) 定時総会

日 時 令和元年 6 月 10 日 13 : 15 ~ 14 : 00
場 所 ホテルオークラ東京 別館地下 2 階「アスコットホールⅡ」
議 事 <決議事項>
第 1 号議案 平成 30 年度事業報告及び決算承認の件
第 2 号議案 役員選任の件
<報告事項>
令和元年度事業計画及び同収支予算報告の件

(2) 理事会

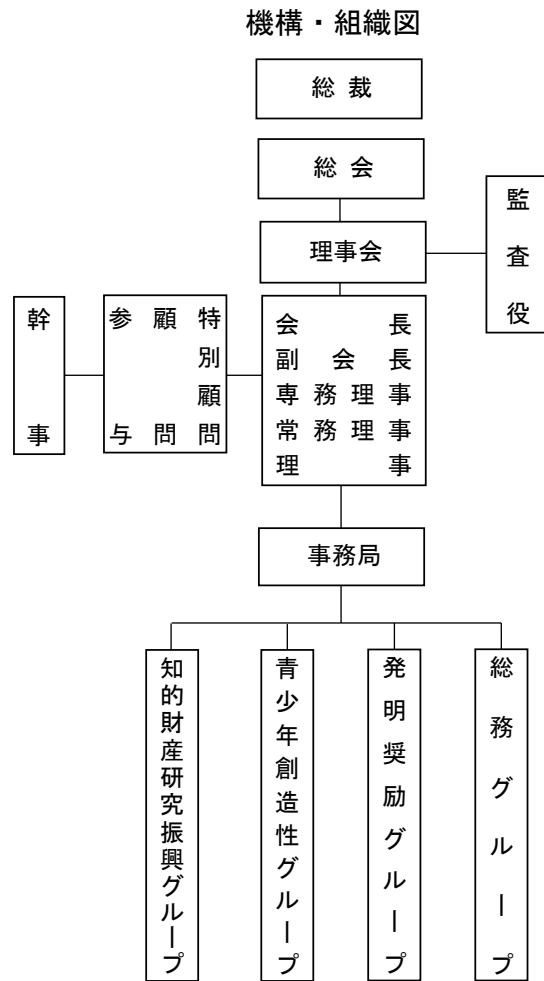
- ① 日 時 令和元年 5 月 16 日 12 : 20 ~ 13 : 30
場 所 霞山会館「霞山の間」
議 題 (1) 平成 30 年度事業報告及び決算 (案) について
(2) 役員選任 (案) について
(3) 定時総会の招集 (案) について
(4) 幹事の推薦について
報告事項 (1) 全国発明表彰 第 2 表彰区分 (「21 世紀発明賞」) の名称変更について
(2) 代表理事等の職務執行状況
(3) 一般社団法人発明推進協会からの特定寄附受入
(4) 平成 30 年度 青少年創造性開発育成事業へのご協賛
(5) 令和元年度 公益財団法人 J K A 補助事業
(6) その他
- ② 日 時 令和元年 6 月 10 日 14 : 05 ~ 14 : 15
場 所 ホテルオークラ東京 別館地下 2 階「アスコットホールⅢ」
議 題 (1) 会長、副会長、専務理事及び常務理事の選定について
(2) 代表理事の選定について
(3) 幹事の推薦について

- ③ 理事会の省略による決議の方法により、当該議案が議決された。
議 案 令和 2 年度事業計画・同収支予算 (案) の件
決議日があったものと見なされた日 令和 2 年 3 月 31 日

6. 登 記 事 項

役員変更登記 令和元年 7 月 23 日

7. 組織及び職員数 (令和2年3月31日現在)



職員数 20名

8. 恩賜発明賞・恩賜記念賞の贈呈

皇室より御下賜金を拝受し、令和元年度全国発明表彰において、独創性に富む極めて優れた発明により我が国科学技術の振興と産業の発展に大きく貢献した発明者に恩賜発明賞を贈り、その榮譽を讃えた。また、第78回全日本学生児童発明くふう展において、最も優秀な作品の創作者に恩賜記念賞を選定した。

- 恩賜発明賞 「英国の社会インフラとなった高速鉄道車両（Class800）システムの意匠」
高田 裕一郎 株式会社日立製作所
園 真 株式会社日立製作所
- 恩賜記念賞 「太陽光採光装置」
工藤 貴博 町田市立鶴川第二小学校 6年

9. 発明奨励振興事業

(1) 全国発明表彰

- 主催 発明協会
- 後援 文部科学省、経済産業省、特許庁、日本経済団体連合会、日本商工会議所、日本弁理士会、朝日新聞社

令和元年度は、地域の発明協会、企業、関係団体等からの推薦により、意匠・電気・化学・機械及び21世紀専門部会を経て、平成31年4月9日の選考委員会において、第1表彰区分として恩賜発明賞、内閣総理大臣賞等の特別賞ほか各賞を、第2表彰区分として21世紀発明奨励賞を選考した。

また、恩賜発明賞、内閣総理大臣賞等特別賞を受賞した法人の代表者に発明実施功績賞を、21世紀発明奨励賞を受賞した法人の代表者に21世紀発明貢献賞をそれぞれ贈呈した。

表彰式は、令和元年6月10日にホテルオークラ東京において、総裁常陸宮殿下御臨席のもと、左藤内閣府副大臣、永岡文部科学副大臣、石川経済産業大臣政務官、米村特許庁総務部長をはじめとする来賓や各界から多数の参列者を得て挙行了した。

- 第1表彰区分
 - 恩賜発明賞 1件 2名 特別賞 9件 20名
 - 発明賞 12件 36名 発明実施功績賞 9件 9名
- 第2表彰区分
 - 21世紀発明奨励賞 3件 4名
 - 21世紀発明貢献賞 3件 3名
- 発明奨励功労賞 10名

なお、恩賜発明賞の受賞者には畠山一清賞を贈呈し、特別賞及び21世紀発明奨励賞受賞者にはそれぞれ副賞を贈呈した。

(2) 地方発明表彰

- 主催 発明協会
共催 46道府県発明協会
後援 文部科学省、特許庁、中小企業庁、各経済産業局、北海道、秋田県、東京都、岐阜県、福井県、広島県、徳島県、沖縄県、日本弁理士会、工業所有権電子情報化センター

令和元年度は、地域の発明協会から多数推薦された中から、令和元年7月22日に開催した中央選考委員会、8月下旬に各地方で開催した地方選考委員会において各賞を選考した。

表彰式は、令和元年10月上旬から11月下旬にかけて以下のとおり挙行し、計482件、1,420名を表彰した。

・北海道地方発明表彰式	10月29日	北海道帯広市
・東北地方発明表彰式	10月9日	秋田県秋田市
・関東地方発明表彰式	11月13日	東京都台東区
・中部地方発明表彰式	11月22日	岐阜県岐阜市
・近畿地方発明表彰式	11月19日	福井県福井市
・中国地方発明表彰式	10月25日	広島県広島市
・四国地方発明表彰式	11月20日	徳島県徳島市
・九州地方発明表彰式	11月8日	沖縄県那覇市

(3) 戦後日本のイノベーション100選

戦後日本で成長を遂げ、我が国産業経済の発展に貢献したイノベーションを紹介する特設サイトの運営を行った。

10. 青少年創造性開発育成事業

(1) 第78回全日本学生児童発明くふう展

- 主催 発明協会
後援 文部科学省、経済産業省、特許庁、世界知的所有権機関、日本弁理士会、NHK、毎日新聞社、日本科学技術振興財団・科学技術館、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、全国高等学校長協会、全国工業高等学校長協会

令和元年度は、各地域で開催された発明くふう展等において優秀な成績を収めた作品を中心に地域の発明協会より推薦された754点の作品について、令和2年1月9日に審査幹事会、1月24日に審査委員会を開催し、恩賜記念賞、内閣総理大臣賞等の特別賞ほか各賞を選考した。

なお、例年3月下旬に開催する展覧会及び表彰式については、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため開催を延期した（令和2年度開催予定）。

- ・第78回全日本学生児童発明くふう展入賞作品
○恩賜記念賞 1点 ○特別賞 13点 ○奨励賞 20点 ○入選 123点

(2) 未来の科学の夢絵画展

主催 発明協会

後援 文部科学省、経済産業省、特許庁、日本弁理士会、NHK、
朝日新聞社、朝日小学生新聞、朝日中高生新聞、
日本美術教育連合、美育文化協会

①第 41 回未来の科学の夢絵画展

全国の小・中学校、幼稚園・保育園及び外国人学校の児童生徒から応募のあった 8,069 点の作品について、平成 31 年 2 月 20 日に審査委員会を開催し、文部科学大臣賞等の特別賞ほか各賞を選考した。

展覧会は、平成 31 年 4 月 17 日から 4 月 21 日にかけて東京上野・国立科学博物館において開催した。

表彰式は、平成 31 年 4 月 19 日に同館日本館講堂において、文部科学省より小林振興企画課奨励室長、特許庁より河西総務部総務課長をはじめ来賓多数の参列を得て挙行了た。

・「小学校・中学校の部」

○特別賞	11 点	○優秀賞	48 点	○奨励賞	77 点
------	------	------	------	------	------

・「幼稚園・保育園の部」

○特別賞	1 点	○優秀賞	5 点	○奨励賞	40 点
------	-----	------	-----	------	------

・「外国人学校の部」

○特別賞	1 点	○優秀賞	5 点	○奨励賞	10 点
------	-----	------	-----	------	------

②第 42 回未来の科学の夢絵画展

全国の小・中学校、幼稚園・保育園及び外国人学校の児童生徒から応募のあった 8,825 点の作品について、令和 2 年 2 月 5 日に審査委員会を開催し、文部科学大臣賞等の特別賞ほか各賞を選考した。

なお、上記 10. (1)「全日本学生児童発明くふう展」と同時開催を予定していた展覧会及び表彰式については、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため開催を延期した（令和 2 年度開催予定）。

・「小学校・中学校の部」

○特別賞	11 点	○優秀賞	49 点	○奨励賞	79 点
------	------	------	------	------	------

・「幼稚園・保育園の部」

○特別賞	1 点	○優秀賞	5 点	○奨励賞	41 点
------	-----	------	-----	------	------

・「外国人学校の部」

○特別賞	1 点	○優秀賞	5 点	○奨励賞	10 点
------	-----	------	-----	------	------

(3) 未来の科学の夢絵画展 ネット美術館

「未来の科学の夢絵画展」の受賞作品及び各国の公益機関等から推薦を受けた青少年の絵画作品をネット美術館（Web サイト）掲載し、本絵画展等の成果を広く発信した。

(4) 少年少女発明クラブ事業

① 少年少女発明クラブ

次の世代を担う人材を育成するため、令和元年度は、全国 209 か所の発明クラブ（約 11,000 名のクラブ員、約 2,800 名の指導員）において創造性を育成する活動を行った。

② 第 85 回少年少女発明クラブ全国会議

少年少女発明クラブの指導・運営に携わる関係者を対象に、青少年の創造性開発育成に関する諸課題について研究・討議する全国会議を東京都港区において開催した。

- ・開催日：令和元年 11 月 29 日
- ・会場：日本消防会館 大会議室
- ・出席者：全国各発明クラブ会長、指導員、地域の発明協会担当者等 160 名

③ 少年少女発明クラブ指導員表彰

少年少女発明クラブにおける指導活動に多年従事し、青少年の創造性開発育成に関し特に功績のあった指導員 53 名(31 クラブ)を、第 85 回少年少女発明クラブ全国会議において表彰した。

④ 少年少女発明クラブ指導員研修会

少年少女発明クラブ指導員の資質の向上と情報交換を目的とした、ブロック別研修会（6 ブロック）及び都道府県別研修会（9 か所）を開催した。

⑤ 少年少女発明クラブニュースの発行

少年少女発明クラブにおける創意工夫活動の成果、各種イベントの告知・報告等を掲載した「少年少女発明クラブニュース」を隔月（計 6 回）で発行し、全国の少年少女発明クラブ、地域の発明協会、地方自治体、科学館等を通じて広く一般に配布した。

⑥ 「はつめいキッズ」ホームページの運営

青少年の創造性開発育成活動の成果普及を図ることを目的に、少年少女発明クラブをはじめとした本事業全般を紹介するホームページ「はつめいキッズ」を運営した。

*本事業の①、②、④、⑤、⑥については、競輪の補助を受けて実施した。

(5) 第10回全国少年少女チャレンジ創造コンテスト

主催 発明協会
後援 文部科学省、経済産業省、特許庁、日本弁理士会、NHK、読売新聞社、
東京工業大学、全国連合小学校長会、全日本中学校長会
特別協賛 株式会社荏原製作所

令和元年度は、「からくりパフォーマンスカー」をテーマに募集を行い、全国 68 地域で地区大会を開催し、543 チームが参加した。その結果を踏まえ、令和元年 9 月 30 日に開催した第 1 回コンテスト委員会において全国大会に出場する 60 チームを選考した。

全国大会は、令和元年 11 月 30 日に東京都目黒区の東京工業大学屋内運動場において開催し、競技終了後の第 2 回コンテスト委員会において、特別賞（文部科学大臣賞・特許庁長官賞）ほか各賞の選考を行い、同会場にて表彰式を挙行了。

- ・第 10 回全国少年少女チャレンジ創造コンテスト入賞チーム
- 特別賞 2 チーム ○優秀賞 10 チーム

*本事業は、競輪の補助を受けて実施した。

(6) 第 63 回東京都児童生徒発明くふう展

東京都からの受託事業として、第 63 回東京都児童生徒発明くふう展を実施した。展覧会は東京都千代田区の東京国際フォーラム・ロビーギャラリーにおいて令和元年 12 月 5 日から 7 日にかけて開催し、特別賞 12 点、優秀賞 22 点、入選 56 点の計 90 点を展示した。

表彰式は、令和元年 12 月 7 日に東京国際フォーラム G701 会議室にて開催し、特別賞及び優秀賞受賞者計 34 名並びに学校賞受賞校 5 校を表彰した。

(7) 青少年創造性開発育成海外交流

令和元年 10 月 20 日から 27 日にかけて、当協会主催、株式会社荏原製作所の特別協賛により「青少年創造性開発育成海外交流インドネシア派遣団」を結成し、タンゲラン市で開催された「2019 世界青少年発明工夫展」に参加した。

派遣団員は全日本学生児童発明くふう展(第76、77回)、「未来の科学の夢絵画展」(第40、41回)及び「全国少年少女チャレンジ創造コンテスト」(第8、9回)において優秀な成績を収めた青少年14名（創作品9点と絵画2点）と当協会役職員5名の計19名で構成され、英語による作品紹介や各国参加者との交流を行った。

同展はインドネシア科学院が主催し、日本を含む11 か国・地域から創作品126 作品・絵画14作品の参加があった。

- ・日本派遣団受賞状況（金賞・銀賞・銅賞と特別賞とは重複受賞あり）
- 金賞 4 点 ○銀賞 4 点 ○銅賞 2 点 ○特別賞 8 点

*本事業は、競輪の補助を受けて実施した。

(8) 発明の日及び科学技術週間協賛事業

発明の日（平成 31 年 4 月 18 日）及び科学技術週間（平成 31 年 4 月 15 日から 21 日）協賛事業として、当協会、地域の発明協会及び全国の少年少女発明クラブにおいて公開発明教室、発明クラブ作品展、無料発明相談会等を行った。

(9) 青少年創造性開発育成委員会

創造性開発育成事業の拡充・強化等について審議を行うため、「第 39 回青少年創造性開発育成委員会」を書面により開催した。

(10) 青少年創造性開発育成事業へのご協賛

当協会が行う青少年創造性開発育成事業について、広く産業界からの事業協賛を募り同事業の更なる充実を図った。

令和元年度においては、以下の協賛を得た。

- ・ ゴールドスポンサー 9 社・団体
- ・ シルバースポンサー 9 社
- ・ ブロンズスポンサー 22 社
- ・ 寄附 7 社

11. 知的財産権制度普及等事業

国際知的財産保護フォーラム

国際知的財産保護フォーラム（IIPPF）の活動に企画委員として参画するとともに、令和元年 7 月 13 日に東京都中央区教育センターにて開催された「出張 IP カルチャー教室（青少年向け知的財産教室）」において「真正品、模倣品・海賊版の展示」を実施した。また、令和元年 9 月 21 日に第 48 回中央区児童・生徒発明くふう展会場において「真正品、模倣品・海賊版の展示」を実施した。

12. 地域機関との相互連携

発明協会会長等懇談会（8 地方ブロック）

全国で開催される地方発明表彰式にあわせ、令和元年 10 月上旬から 11 月下旬にかけて地域の発明協会会長等との懇談会を開催し意見交換を行った。

懇談会は、北海道地方・10 月 29 日、東北地方・10 月 9 日、関東地方・11 月 13 日、中部地方・11 月 22 日、近畿地方・11 月 19 日、中国地方・10 月 25 日、四国地方・11 月 20 日、九州地方・11 月 8 日の日程で開催した。

13. 関係省庁への協力

(1) 文部科学省表彰関係事業への協力

科学技術の振興と発明の普及に寄与するため、叙勲、褒章及び文部科学大臣表彰科学技術賞（開発部門、技術部門等）の表彰対象者の調査・推薦を行った。

(2) 特許庁知財功労賞への協力

経済産業省・特許庁が実施した「知的財産権制度関係功労者表彰」及び「知的財産権制度活用優良企業等表彰」の対象者等の調査・推薦を行った。

14. 東京発明推進協議会の活動

令和2年1月14日に新年賀詞交歓会を開催し、会員、来賓等との交流を図った。

15. 公益事業の広報活動

当協会機関紙「月報はつめい」を会員ほか広く一般に配付するとともにホームページにおいて広報活動に努めた。

I－II. 事業報告書の附属明細書

令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和2年5月
公益社団法人 発明協会

貸借対照表

令和2年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金及び預金	75,529,054	51,260,143	24,268,911
未収入金	28,875,261	32,716,311	△ 3,841,050
預け金	1,619,582	1,562,878	56,704
前払費用	2,735,317	0	2,735,317
流動資産合計	108,759,214	85,539,332	23,219,882
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
青少年創造特定資産	6,000,000	6,000,000	0
退職給付引当資産	18,208,333	13,458,333	4,750,000
特定資産合計	24,208,333	19,458,333	4,750,000
(2) その他固定資産			
その他固定資産合計	0	0	0
固定資産合計	24,208,333	19,458,333	4,750,000
資産合計	132,967,547	104,997,665	27,969,882
II 負債の部			
1. 流動負債			
買掛金	3,927,463	11,068,304	△ 7,140,841
未払金	55,526,127	55,392,552	133,575
前受金	5,070,000	4,940,000	130,000
仮受金	11,819,848	0	11,819,848
預り金	776,803	756,448	20,355
流動負債合計	77,120,241	72,157,304	4,962,937
2. 固定負債			
退職給付引当金	18,208,333	13,458,333	4,750,000
固定負債合計	18,208,333	13,458,333	4,750,000
負債合計	95,328,574	85,615,637	9,712,937
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
2. 一般正味財産	37,638,973	19,382,028	18,256,945
(うち特定資産への充当額)	(6,000,000)	(6,000,000)	(0)
正味財産合計	37,638,973	19,382,028	18,256,945
負債及び正味財産合計	132,967,547	104,997,665	27,969,882

正味財産増減計算書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
〔1〕経常増減の部			
1. 経常収益			
(1) 御 下 賜 金	50,000	50,000	0
(2) 受 取 会 費	30,920,000	31,050,000	△ 130,000
(3) 事 業 収 益	3,472,964	3,451,366	21,598
① 発 明 奨 励 振 興 事 業 収 益	(3,472,964)	(3,451,366)	(21,598)
(4) 受 取 補 助 金 等	29,357,963	28,717,783	640,180
① J K A 補 助 金	(29,357,963)	(28,717,783)	(640,180)
(5) 受 取 寄 付 金 ・ 受 取 協 賛 金 等	265,441,670	262,090,779	3,350,891
① 資 金 寄 付 収 益	(198,508,000)	(194,798,000)	(3,710,000)
② 協 賛 金 収 益	(37,533,670)	(40,277,779)	(△ 2,744,109)
③ 資 金 寄 付 振 替 額	(29,400,000)	(27,015,000)	(2,385,000)
(6) 雑 収 益	1,171,093	999,764	171,329
① 雑 収 益	(1,170,576)	(999,317)	(171,259)
② 受 取 利 息	(517)	(447)	(70)
経 常 収 益 計	330,413,690	326,359,692	4,053,998
2. 経常費用			
(1) 事 業 費	269,933,618	279,352,551	△ 9,418,933
① 発 明 奨 励 振 興 事 業 費	(151,437,571)	(158,817,425)	(△ 7,379,854)
② 事 業 人 件 費	(103,011,653)	(97,969,011)	(5,042,642)
③ 事 業 事 務 費	(15,484,394)	(22,566,115)	(△ 7,081,721)
(2) 管 理 費	42,223,127	41,680,100	543,027
① 人 件 費	(6,946,798)	(8,041,497)	(△ 1,094,699)
② 事 務 費	(35,276,329)	(33,638,603)	(1,637,726)
経 常 費 用 計	312,156,745	321,032,651	△ 8,875,906
当 期 経 常 増 減 額	18,256,945	5,327,041	12,929,904
〔2〕経常外増減の部			
(1) 経 常 外 収 益	0	0	0
(2) 経 常 外 費 用	0	0	0
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	18,256,945	5,327,041	12,929,904
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	19,382,028	14,054,987	5,327,041
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	37,638,973	19,382,028	18,256,945
II 指定正味財産増減の部			
(1) 受 取 寄 付 金	29,400,000	27,015,000	2,385,000
① 資 金 寄 付	(29,400,000)	(27,015,000)	(2,385,000)
(2) 一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額	△ 29,400,000	△ 27,015,000	△ 2,385,000
当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	0	0	0
III 正味財産期末残高	37,638,973	19,382,028	18,256,945

正味財産増減計算書内訳表

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計		法人会計	内部取引 等消去	合計
	公1 発明奨励等	小計			
I 一般正味財産増減の部					
[1]経常増減の部					
1. 経常収益					
(1) 御下賜金	50,000	50,000	0		50,000
(2) 受取会費	15,460,000	15,460,000	15,460,000		30,920,000
(3) 事業収益	3,472,964	3,472,964	0		3,472,964
① 発明奨励振興事業収益	(3,472,964)	(3,472,964)	(0)		(3,472,964)
(4) 受取補助金等	29,357,963	29,357,963	0		29,357,963
① JKA補助金	(29,357,963)	(29,357,963)	(0)		(29,357,963)
(5) 受取寄付金・受取協賛金等	221,592,691	221,592,691	43,848,979		265,441,670
① 資金寄付収益	(154,659,021)	(154,659,021)	(43,848,979)		(198,508,000)
② 協賛金収益	(37,533,670)	(37,533,670)	(0)		(37,533,670)
③ 資金寄付振替額	(29,400,000)	(29,400,000)	(0)		(29,400,000)
(6) 雑収益	0	0	1,171,093		1,171,093
① 雑収益	(0)	(0)	(1,170,576)		(1,170,576)
② 受取利息	(0)	(0)	(517)		(517)
経常収益計	269,933,618	269,933,618	60,480,072		330,413,690
2. 経常費用					
(1) 事業費	269,933,618	269,933,618	0		269,933,618
① 発明奨励振興事業費	(151,437,571)	(151,437,571)	(0)		(151,437,571)
② 事業人件費	(103,011,653)	(103,011,653)	(0)		(103,011,653)
③ 事業事務費	(15,484,394)	(15,484,394)	(0)		(15,484,394)
(2) 管理費	0	0	42,223,127		42,223,127
① 人件費	(0)	(0)	(6,946,798)		(6,946,798)
② 事務費	(0)	(0)	(35,276,329)		(35,276,329)
経常費用計	269,933,618	269,933,618	42,223,127		312,156,745
当期経常増減額	0	0	18,256,945		18,256,945
[2]経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0		0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0		0
当期経常外増減額	0	0	0		0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	0	0	18,256,945		18,256,945
他会計振替額	0	0	0		0
当期一般正味財産増減額	0	0	18,256,945		18,256,945
一般正味財産期首残高	0	0	19,382,028		19,382,028
一般正味財産期末残高	0	0	37,638,973		37,638,973
II 指定正味財産増減の部					
(1) 受取寄付金	29,400,000	29,400,000	0		29,400,000
① 資金寄付	(29,400,000)	(29,400,000)	(0)		(29,400,000)
(2) 一般正味財産への振替額	△ 29,400,000	△ 29,400,000	0		△ 29,400,000
当期指定正味財産増減額	0	0	0		0
指定正味財産期首残高	0	0	0		0
指定正味財産期末残高	0	0	0		0
III 正味財産期末残高	0	0	37,638,973		37,638,973

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

継続事業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象または状況は存在しない。

2. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

退職給付引当金: 役員退職手当金については、役員の退職手当金支給に備えるため、規則に基づく期末要支給額を計上

(2) 消費税等の会計処理

税抜方式によっている。

3. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
青少年創造特定資産	6,000,000	0	0	6,000,000
退職給付引当資産	13,458,333	4,750,000	0	18,208,333
合 計	19,458,333	4,750,000	0	24,208,333

4. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
特定資産				
青少年創造特定資産	6,000,000	(0)	(6,000,000)	(0)
退職給付引当資産	18,208,333	(0)	(0)	(18,208,333)
合 計	24,208,333	(0)	(6,000,000)	(18,208,333)

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の 記載区分
補助金						
2019年度公益事業振興補助事業	公益財団法人JKA	0	29,357,963	29,357,963	0	—
合 計		0	29,357,963	29,357,963	0	

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金額
経常収益への振替額 資金寄付振替額	29,400,000
合 計	29,400,000

附 属 明 細 書

1. 特定資産の明細

財務諸表に対する注記に記載のとおりである。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科 目	期首残高	当期増加額	当 期 減 少 額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	13,458,333	4,750,000	0	0	18,208,333

財 産 目 録

令和2年3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)			
現 金	手元保管	運転資金として	970,976
預 金	当座預金(三井住友銀行本店営業部)	運転資金として	53,301,455
	普通預金(三井住友銀行本店営業部)	運転資金として	1,000,379
	普通預金(三井住友銀行本店営業部)	運転資金として	14,963,880
	普通預金(りそな銀行東京営業部)	運転資金として	2,679,084
	振替貯金(ゆうちょ銀行本店)	運転資金として	2,613,280
未 収 入 金	公益財団法人 JKA他	公益目的事業に係る補助金他	28,875,261
預 け 金	小樽少年少女発明クラブ他	公益目的事業に係る運営事業費他	1,619,582
前 払 費 用	公益財団法人日本科学技術振興財団他	公益目的事業に係る展示会場費他	2,735,317
流 動 資 産 合 計			108,759,214
(固定資産)			
特定資産			
青少年創造特定資産	当座預金(三井住友銀行本店営業部)	青少年創造性育成開発	6,000,000
退職給付引当資産	当座預金(三井住友銀行本店営業部)	退職給付引当金見合の引当資産	18,208,333
特 定 資 産 合 計			24,208,333
その他固定資産			
その他固定資産合計			0
固 定 資 産 合 計			24,208,333
資 産 合 計			132,967,547
(流動負債)			
買 掛 金	株式会社インバック他	公益目的事業に係る発送業務費他	3,927,463
未 払 金	一般社団法人発明推進協会他	公益目的事業に係る出向料他	55,526,127
前 受 金	会員	公益目的事業に係る会費	5,070,000
仮 受 金	虎ノ門一・二丁目地区市街地再開発組合	移転補償金	11,819,848
預 り 金	芝税務署他	公益目的事業に係る所得税他	776,803
流 動 負 債 合 計			77,120,241
(固定負債)			
退職給付引当金	役員に対するもの	退職金の支払いに備えるもの	18,208,333
固 定 負 債 合 計			18,208,333
負 債 合 計			95,328,574
正 味 財 産			37,638,973

収 支 計 算 書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
〔1〕経常増減の部			
1. 経常収益			
(1) 御 下 賜 金	50,000	50,000	0
(2) 受 取 会 費	32,170,000	30,920,000	1,250,000
(3) 事 業 収 益	3,545,000	3,472,964	72,036
① 発 明 奨 励 振 興 事 業 収 益	(3,545,000)	(3,472,964)	(72,036)
(4) 受 取 補 助 金 等	32,561,000	29,357,963	3,203,037
① J K A 補 助 金	(32,561,000)	(29,357,963)	(3,203,037)
(5) 受 取 寄 付 金 ・ 受 取 協 賛 金 等	255,268,000	265,441,670	△ 10,173,670
① 資 金 寄 付 収 益	(187,768,000)	(198,508,000)	(△ 10,740,000)
② 協 賛 金 収 益	(50,000,000)	(37,533,670)	(12,466,330)
③ 資 金 寄 付 振 替 額	(17,500,000)	(29,400,000)	(△ 11,900,000)
(6) 雑 収 益	1,084,000	1,171,093	△ 87,093
① 雑 収 益	(1,084,000)	(1,170,576)	(△ 86,576)
② 受 取 利 息	(0)	(517)	(△ 517)
経 常 収 益 計	324,678,000	330,413,690	△ 5,735,690
2. 経常費用			0
(1) 事 業 費	291,316,000	269,933,618	21,382,382
① 発 明 奨 励 振 興 事 業 費	(170,701,000)	(151,437,571)	(19,263,429)
② 事 業 人 件 費	(98,621,000)	(103,011,653)	(△ 4,390,653)
③ 事 業 事 務 費	(21,994,000)	(15,484,394)	(6,509,606)
(2) 管 理 費	35,259,000	42,223,127	△ 6,964,127
① 人 件 費	(6,464,000)	(6,946,798)	(△ 482,798)
② 事 務 費	(28,795,000)	(35,276,329)	(△ 6,481,329)
経 常 費 用 計	326,575,000	312,156,745	14,418,255
当 期 経 常 増 減 額	△ 1,897,000	18,256,945	△ 20,153,945
〔2〕経常外増減の部			
(1) 経 常 外 収 益	0	0	0
(2) 経 常 外 費 用	0	0	0
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	△ 1,897,000	18,256,945	△ 20,153,945
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	19,382,028	19,382,028	0
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	17,485,028	37,638,973	△ 20,153,945
II 指定正味財産増減の部			
(1) 受 取 寄 付 金	17,500,000	29,400,000	△ 11,900,000
① 資 金 寄 付	(17,500,000)	(29,400,000)	(△ 11,900,000)
(2) 一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額	△ 17,500,000	△ 29,400,000	11,900,000
当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	0	0	0
III 正味財産期末残高	17,485,028	37,638,973	△ 20,153,945

(説明資料)

収 支 計 算 書 (資金ベース)

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位:円)

No.	科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
	I 事業活動収支の部			
	1. 事業活動収入			
1	(1)御 下 賜 金	50,000	50,000	0
2	(2)会 費 収 入	32,170,000	30,920,000	1,250,000
3	(3)事 業 収 入	3,545,000	3,472,964	72,036
4	①発 明 奨 励 振 興 事 業 収 入 (3,545,000)	(3,472,964)	(72,036)
5	(4)補 助 金 等 収 入	32,561,000	29,357,963	3,203,037
6	①J K A 補 助 金 収 入 (32,561,000)	(29,357,963)	(3,203,037)
7	(5)寄 付 金 ・ 協 賛 金 収 入	255,268,000	265,441,670	△ 10,173,670
8	①資 金 寄 付 収 入	205,268,000	227,908,000	△ 22,640,000
9	②協 賛 金 収 入	50,000,000	37,533,670	12,466,330
10	(6)雑 収 入	1,084,000	1,171,093	△ 87,093
11	①雑 収 入 (1,084,000)	(1,170,576)	(△ 86,576)
12	②受 取 利 息 (0)	(517)	(△ 517)
13	事業活動収入計	324,678,000	330,413,690	△ 5,735,690
	2. 事業活動支出			
14	(1)事 業 費 支 出	286,927,000	266,375,868	20,551,132
15	①発 明 奨 励 振 興 事 業 支 出 (170,701,000)	(151,437,571)	(19,263,429)
16	②事 業 人 件 費 (98,621,000)	(103,011,653)	(△ 4,390,653)
17	③事 業 事 務 費 (17,605,000)	(11,926,644)	(5,678,356)
18	(2)管 理 費 支 出	33,948,000	41,030,877	△ 7,082,877
19	①人 件 費 (6,464,000)	(6,946,798)	(△ 482,798)
20	②事 務 費 (27,484,000)	(34,084,079)	(△ 6,600,079)
21	事業活動支出計	320,875,000	307,406,745	13,468,255
22	事業活動収支差額	3,803,000	23,006,945	△ 19,203,945
	II 投資活動収支の部			
	1. 投資活動収入			
23	(1)特 定 資 産 取 崩 収 入	3,000,000	0	3,000,000
24	投資活動収入計	3,000,000	0	3,000,000
	2. 投資活動支出			
25	(1)特 定 資 産 支 出	5,700,000	4,750,000	950,000
26	投資活動支出計	5,700,000	4,750,000	950,000
27	投資活動収支差額	△ 2,700,000	△ 4,750,000	2,050,000
28	当期収支差額	1,103,000	18,256,945	△ 17,153,945
29	前期繰越収支差額	13,382,028	13,382,028	0
30	次期繰越収支差額	14,485,028	31,638,973	△ 17,153,945

以上の通り相違ありません。

令和2年5月15日

公益社団法人 発 明 協 会

会 長 野 間 口 有

令和元年度事業報告書及び財務諸表について監査した結果、いずれも適正かつ適法であることを認めます。

令和2年5月15日

監査役 石 井 宏 治

監査役 梶 原 徳 二